

(様式2)

平成 23 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|-----------------|------------|
| 事業所番号 | 1570104065 | |
| 法人名 | 医療法人 愛広会 | |
| 事業所名 | グループホームおやま | |
| 所在地 | 新潟県新潟市北区木崎754番地 | |
| 自己評価作成日 | 平成23年11月1日 | 評価結果市町村受理日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | |
|-------|--------------------------------|--|
| 評価機関名 | 社団法人新潟県社会福祉士会 | |
| 所在地 | 新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階 | |
| 訪問調査日 | 平成24年1月26日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各居室が『我が家』であるという事を前提に、居心地が良く何でも本音で話せる関係作りを心がけています。
明るく活気があり、笑顔の耐えないグループホームでありたいと思い実践しております。
2階居室は階段を使用しますが、自然なりハビリティとなり下肢筋力UP、維持に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から10年以上経過した歴史のあるグループホームである。同法人が運営する病院と介護老人保健施設に隣接していることから、医療や緊急災害時の対応について連携が確立しており、安心して過ごせる環境にある。

ホーム内は明るさと清潔感があり、笑い声の絶えない家庭的な雰囲気を感じることができる。建物は2階建てであり、2階に居室のある利用者は食事・入浴等の活動時には必ず階段を昇降している。このような日常生活自体がリハビリとなり、利用者の身体機能の維持・向上につながっている。日常的な散歩のほか、週に3回の買い物、月に1回の外出行事といった外出やレクリエーションなど、活動の機会を多く持つことで、利用者は生き生きと過ごしている。利用者職員とがともにホームを作り上げており、信頼関係のもと、職員も『家族の一員』と感じられるような一体感がある。

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念である『尊敬・尊重・楽しく』を常に念頭に置き、会議等でも振り返り、実践に繋げている。 | 職員間で話し合って作成した理念を掲げている。地域密着型サービスとして、地域の一員としての役割を担えるよう平成21年に理念の見直しを行った。会議をはじめとして、日常においても都度振り返る機会を持ちながら、全職員が理念を共有し実践できるように取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域のイベント等に参加している。近隣のスーパーに週3回買い物に出かけ顔見知りの方に会ったり等良い表情が見られている。又、実習生の受け入れ等でも交流が持っている。 | 近くに民家が少なく、病院等の敷地内に立地していることもあり、近所の方が訪れる機会は少ないが、地域の行事には積極的に参加し、中学校との交流も継続している。定期的なスーパーへの買い物を通して定期的に地域と交流する機会がある。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 申し込み希望時や問い合わせ等に、ご家族が安心できるよう勉強や実践を通しての知識をお伝えし、認知症に対する理解を深めて頂いている。 | / | / |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2カ月に1回定期的に実施しており、様子や状況報告を行い、各出席者の立場からアドバイスを聞き、サービス向上に活かしている。 | 会議では行事や利用者の現況といった事業報告を行い、参加者から助言を得て運営に活かしている。隣接病院の医師も参加するため医療的なアドバイスを受けることもできている。会議での内容は、職員会議にて報告し職員間で周知されている。 | 第三者的視点でより幅広い意見や情報を得られるよう、民生委員や町内会長等の地域の代表者からも参加を得られるよう検討を期待したい。 |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域包括支援センターと連絡を取り、おやまの現状を理解して頂いた上で、相談やアドバイスが頂けている。又、各種会議にも出席し、他事業所等との情報交換も出来ている。 | 地域包括支援センターとは困難事例等の相談や、情報交換を日頃から行っており、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 何が身体拘束に当たるのかを職員会議(内部研修)で再確認し、身体拘束はあってはならない事と認識し、職員全体に周知されている。 | 職員会議内で研修を行うことで、全職員が身体拘束を行わないケアについて理解を深めている。受診の付き添い等で職員が手薄になる際はやむを得ず玄関の施錠を行うことがあるが、最小限に留めるよう努力している。 | やむを得ない状況ではあるが日中の玄関施錠は利用者の行動抑制につながるという意識のもと、施錠を行わないようにする工夫等について今度も継続的な検討が望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | (5-2) | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員会議（内部研修）で再確認を行っており、虐待にも様々ある事、どれが虐待にあたるのか等、勉強や振り返りを行っている。虐待はあってはならない事と周知され認識している。 | 高齢者虐待防止関連法について、研修を通して学ぶ機会がある。日常において職員の声かけや態度等に気になる点があれば、管理者により問題提起をして都度話し合うようにしている。 | |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用を必要とする方や、利用している方の入居の場合でも適正な支援ができるよう、資料を集めたり併設施設の相談員から聞いたりし、学んでいる。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 口頭、文書にて説明を行い、ご理解、ご納得を頂いた上、同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | サービス担当者会議や面会時、電話連絡時等にご要望等の確認を行っている。職員に気軽に話せる雰囲気作りも行っている。又、無記名で良い事とし書面を送付し更なる意見が引き出せるようにも行っている。 | 利用者および家族に対して、職員は様々な場面で意見や要望を積極的に聞き、運営に反映させることでサービスの質の向上につなげている。職員間では都度申し送り等で内容を共有している。平成23年度には家族アンケートを実施したが、残念ながら返送がなかった。 | さらなるサービスの質向上の方策として、今後も継続的に家族アンケートといった意見表出の機会を設けることが望まれる。テーマを絞る、記述方法を変更する等、より意見が表出されやすくなるよう検討・工夫を期待したい。 |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 常に日々の話し合いや申し送りノート等の活用で職員の意見や提案を反映させている。又、年に1度の自己申告書もあり、運営に役立たせている。 | 管理者は職員に対して、会議や申し送り時だけでなく、日常から意見を聞くようにし、何でも話せるような環境作りをしている。寄せられた意見や提案は業務改善やサービスの向上につなげている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各職員の勤務状況を把握しており、研修会参加等の勤めや、希望する研修会に参加させる等、話をする機会も持ち、向上心が持てるようにしている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | すすんで研修会に参加できるような体制が取られている。研修に参加した職員は講師となり、内部研修として各職員にも反映されるようになっていく。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 事業所会議や包括ケア会議、他事業所の運営推進会議等にも出席しており、情報交換や勉強する機会がある。又、他施設実習から得る物等、サービスの向上に反映させている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 環境が変わる事になる為、想いを傾聴・尊重し、生活歴等の十分な情報収集を行いながら、安心して頂けるようコミュニケーションを取っている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 想いを良く聴き、受け止め、時には経験から得たアドバイスをすることにより安心感を得て頂いている。全職員が相談に対応できるよう、確実な情報の共有も行っている。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談時に現状の聞き取りを充分に行い、どのような事を求め、必要としているのか見極めを行っている。又、必要に応じたサービスの紹介も行っている。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者それぞれの得意分野を活かし、頼りにしたり、教えて頂いたりしながら互いを支え合う関係が築けている。 | | |
| 19 | (7-2) | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会やサービス担当者会議等で日常の様子をお伝えし、又、外出・外泊時の様子等を伺い、情報の共有を行っている。家族の絆が崩れる事のないよう十分な配慮を行いながら接する事が出来ている。 | 日常における面会に加え、サービス担当者会議には必ず家族から参加してもらうようにしている。定期的および随時ホームでの様子を伝えることで情報の共有を図っている。利用者と家族との外出・外泊の支援も行っている。 | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 電話の利用や手紙、又、一人ひとりに合った面会の仕方等、家族の希望も踏まえ支援を行っている。 | 入居前から利用していたコミュニティーセンターやデイサービスへ継続的に訪問している。ホームへの面会者を把握し関係性に配慮する等、馴染みの関係が途切れないように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|-------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者間関係は全職員が情報を共有し把握している。孤立する事のないよう、職員が仲介役となり良い関係が築けるよう努めている。 | | |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要時には連絡を取り合い、退居後の様子を伺ったり相談に乗ったりしている。契約終了時にも「いつでも何なりとご相談下さい。」とお伝えしている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの得意分野や意向を踏まえ、満足して頂けるよう努めている。本人からの意向がない方には、言動や行動、表情等から職員がくみ取り代弁し、検討している。 | 日常の関わりのなかで、言葉だけではなく表情や行動も観察することで、利用者の真意を把握するよう努めている。記録に残して職員間で情報を共有しており、アセスメントおよび日常のケアに反映させている。 | |
| 24 | (9-2) | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居までに多方面より生活歴の情報を得て、その方に合った環境に近づけるようにしている。 | 入居前においては主に家族から情報を得ている。入居後も、利用者との日常の会話や知り合いの面会等で得た情報は日常の記録に残し、職員間で共有に努めている。 | 日々の支援経過が詳細に記録されており、生活歴やこれまでの暮らしに関して入居後に得た情報もそこに記録されている。より情報をアセスメントに反映させやすよう、関係者が持っている情報を一元化して共有する仕組みも検討してはどうか。 |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 現状を充分に見極め、日々の状況や心身の変化等を記録としても残し、口頭等でも職員間で情報の共有、把握が出来ており、その方に合ったサービスの提供を行っている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人・家族の意向を確認し、全職員で意見を出し合い本人にとってより良い介護計画が作成されるよう努めている。 | 毎月のモニタリング、3ヶ月毎の介護計画の作成を行っている。利用者一人ひとりの個別担当職員を中心として、他職員からも意見を聞きながらアセスメントし、計画作成担当者とともに原案を作成している。サービス担当者会議には家族にも参加してもらい、本人および家族の意向に沿った介護計画を作成している。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活状況は細かく記載されており、業務日誌や申し送りノート等も活用し情報の共有や実践に活かしている。介護計画の見直しにも活かされている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 得意分野や希望に応じ、併設施設の活動に参加したり、不調時には併設施設の看護師の指示を仰いだり等、多機能性が活かされている。 | | |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 音楽や踊り等、ボランティアの協力があり、入居者の生きがいに繋がっている。又、近隣学校等の行事を見学したりし交流を深め、楽しんで生活して頂けるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前説明時に、再度本人・家族の希望を確認し、かかりつけ医を継続したり、併設病院に受診したりしている。併設病院にはない科の受診には、家族の協力を得て適切な受診ができるよう支援している。 | 入居前に本人および家族に確認し、希望に沿ったかかりつけ医としている。併設の協力病院が利便性等に優れていることから、現在は全利用者が協力病院をかかりつけ医としている。協力病院への受診は職員の付き添いを行っており、協力病院にない科目の医療機関へは家族の付き添いをお願いしている。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設施設の看護師より医療連携が取られており、アドバイスや指示があり、相談にも乗って頂けている。入居者や職員の安心感に繋がっている。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 情報交換はカルテや介護記録、口頭等で充分に行っている。早期に回復、退院が出来るように努め、病院へ職員が行く等し細かな連絡・相談等も行われている。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 面談時から方針の説明は行っている。入居時には書面をもって再度説明し、本人・家族の意向を踏まえ、事業所で出来る限りの支援を行っている。 | 終末期への対応は設備的にも難しい状況であり、入居時に本人および家族に説明を行うとともに同意を得ている。重度化への対応として、法人内外の介護老人保健施設や特別養護老人ホームの申込みをせらう一方で、本人の意向を尊重したできる限りの支援を行っている。平成23年度新たに重度化や終末期に対する指針を明文化し、改めて同意を得た。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|--------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | (12-2) | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 各マニュアルを作成しており、職員会議等で再確認を行っている。併設施設の看護師より指導も頂いている。急変等があった後、全職員で再確認をし、迅速な対応に繋げている。 | 定期的に訪問する看護師より、他事業所で起きた事例をもとに、対応について指導を受けている。協力病院と24時間体制での連携も取れており、職員の安心につながっている。以前ホームで起きた骨折の事例から、職員からの提案で「添え木」も作成した。 | ホームでも起こり得る心肺蘇生や誤嚥・窒息等、急変・事故時の初期対応について、具体的なシミュレーション訓練が定期的に行われると、より迅速な対応・職員の安心につながっていくのではないかと、今後の取り組みに期待したい。 |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 様々な状況を想定した訓練を実施しており、反省会や職員会議等で話し合い、改善・再確認を行っている。又、併設施設とも協力体制が築けている。 | 全職員が対応できるよう、夜間の火災を想定した訓練を2ヶ月に1回行っている。併設施設との連携体制は確立されており、平成23年度は新たにスプリンクラーも設置された。水害や地震についても対応を再確認するとともに訓練も行い、独自に非常食も準備している。 | |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの性格、出来る事の把握に努め、方言を使ったり敬語を使ったりと、その方に合った言葉掛けを行い、誇りやプライバシーには充分配慮し、支援している。 | 日常生活の様々な場面で声かけの方法等、利用者一人ひとりへの対応について職員間で話し合い実践している。また、かかりつけの精神科医より認知症の方への対応について指導を受け、尊厳を傷つけない対応に努めている。 | プライバシーの保護の根拠となるものを示した上で職員間で統一した認識を持つことが望まれる。個別ケアを支える基盤となる、最低限守るべき尊厳やプライバシーの保護について水準を確保できるよう、マニュアルを整備する等の取り組みにも期待したい。 |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本音が話せる雰囲気作りを行い、コミュニケーションを充分に取り、自己決定できるように努めている。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの生活ペースを尊重し、個人のやりたい事を支援したり、時には全体で楽しんだり、焦らせる事のないよう支援している。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 愛用の化粧品類や洋服等の購入、毛染めやパーマ、カット等希望に添い支援している。その日に着る服選びの相談にも乗っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | <p>調理や下準備、後片付け等、それぞれの持っている力を活かし職員と一緒に、自然に意欲を持った役割となっている。又、食事と一緒に摂る事でコミュニケーションも取れている。</p> | <p>メニューは利用者の意見を聞きながら決定しており、定期的に法人内の管理栄養士からアドバイスを受けている。利用者は調理、配膳、後片付けといった役割を持っており、それぞれ意欲的に取り組んでいる。職員も同じものを一緒に摂り、会話のある和やかな食事時間を過ごしている。</p> | |
| 41 | | <p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> | <p>一人ひとりに合った摂取量を把握し、体重変化もみている。栄養面も併設施設の管理栄養士より定期的に献立の確認、指導を頂いている。水分摂取状況も確認している。</p> | | |
| 42 | | <p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p> | <p>毎食後のうがい、歯磨きを行っている。併設病院歯科医師からの指導も取り入れその方の状況により、声掛けや見守り、介助を行っている。</p> | | |
| 43 | (16) | <p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p> | <p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要によっては表に記載し、提示誘導ではなく行きたい時にトイレに行けるよう、又、失敗があっても不安、不快な思いをさせないよう充分配慮し支援を行っている。</p> | <p>利用者の排泄パターンを把握したなかで、随時確認や声かけ等の支援を行っている。排泄の失敗に対しても利用者のプライドを傷つけないよう、下着をさりげなく洗濯に出す等配慮している。</p> | |
| 44 | | <p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p> | <p>食物繊維が摂れる献立を工夫したり、便秘がちの方には、朝(起床時)冷たい水分を摂ってもらったりと、自然な排便ができるよう支援している。</p> | | |
| 45 | (17) | <p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p> | <p>入浴回数や時間等、出来る限り希望に添えるようしている。毎日入浴される方もおり、無理強いせず、ゆっくりと入浴できるよう時間にも余裕を持たせている。</p> | <p>入浴曜日や時間は利用者ごと大まかに決まっているが、本人の希望等に応じて柔軟に対応している。拒否のある方に対しては声かけを工夫するが、決して無理強いしないように対応している。</p> | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1階の共有スペース(和室)で寛ぐ方、食堂や他室で談話し過ごす方、自室で休まれる方等一人ひとりの状況に合わせた支援を行っている。又、日中活動提供したり、パジャマの着替えや自室を暖める等行い気持ちよく眠れるよう支援している。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 各人の薬箱に処方箋を添付し、又、服薬一覧表を作成しており、誰がどの薬をいつ服用し、目的や用量、副作用も全職員に周知されている。薬の変更があった場合は特に、業務日誌等を活用し、状態変化の確認に努めている。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの得意分野を活かし、その方に適した役割を持って頂き、力を発揮して頂いている。行事等も含め、出来るだけ外出できるようにもしている。又、好物を聞き、それを取り入れた献立を立てたりしている。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 週3回の買い出し以外にも希望に添い、洋服等の購入やドライブ、散歩等にも出かけている。又、遠出や親戚宅等の場合は、家族と連絡を取り、調整して頂き、協力し合う体制が取られている。 | 日常的な散歩や週3回のスーパーへの買い物のほか、月1回は外出行事を行っている。職員体制が整っている場合、その時の利用者の希望に応じてドライブにも出かけるなど、外出機会を多く持ち、活動的な生活が送れるよう支援している。年間の外出行事のうち2回は家族も参加できる内容とするほか、家族との個別の外出にも柔軟な対応を行っている。 | |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族とも相談の上、お小遣い程度を自己管理している方もいる。一人ひとりの希望や力に応じて事務所管理とする等し、希望の物が購入できるよう支援している。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | いつでも電話が利用できるように、事務所以外にも子機が設置されている。手紙のやり取りも行われている。出来ない事を手伝い連絡が取れるよう支援し、又、訴えの少ない方にはさりげなく確認等し安心感に繋げている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 常に清潔には配慮しており、季節に合った作品作りをし飾っている。音や光に対してボリュームの調整やカーテンの開け閉め、換気等、その状況に応じこまめに行っている。 | ホーム内は日当たりがよく、清潔な印象がある。利用者が制作した貼り絵やパッチワーク等が随所に飾られており、温かみのある雰囲気である。リビングには大きなソファが設置され、利用者が腰をかくつるいだ時間を過ごしている。また、利用者が踏み外さないよう階段の縁に色を塗るなど、安全に生活できる配慮と工夫がなされている。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂のテーブル席の他に、和室スペースもあり、仲良く談話、新聞、雑誌、テレビ、お昼寝等、思い思いに過ごして頂いている。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前より使用していたテーブルや椅子、仏壇等をお持ち頂いており、好みの物を飾ったりと、一人ひとりの個性が伺える自分らしい居室となっている。 | 出来る限り入居前から使い慣れたものを持ち込んでもらうようお願いし、入居時には、居室のレイアウトを本人・家族にお任せしている。写真や手作り作品を飾るなど、利用者一人ひとりの個性を活かした居室づくりがされている。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 階段の段差がわかるように淵に色づけしたり、トイレ、自室がわかるようにのれんを下げたり表示したり、馴染みやすい雰囲気作りを行っている。 | | |